

経営比較分析表（令和3年度決算）

福岡県 直方市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m	
-	44.83	99.20	4,080	

人口（人）	面積(km	人口密度(人/km
55,941	61.76	905.78
現在給水人口(人)	給水区域面積(km	給水人口密度(人/km
55,410	44.96	1,232.43

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
[] 令和3年度全国平均

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率
2年度の経常収支比率の上昇の要因は、人員の見直し、退職引当金の削減、及びコロナ対策の補助金（他会計負担金）の増によるもので、3年度は例年並みの値となった。経営状況の向上に努めていく必要がある。
②累積欠損金比率
累積欠損金は発生していない。
③流動比率
今後も人口減少による、収入減少が見込まれるため費用の削減を続ける必要がある。
④企業債残高対給水収益比率
類似団体と比較すると高い水準となっているが過去において浄水施設の全面改修を行ったことによるもので、償還原資確保し、返済計画に沿って償還しており、残高は減少傾向にある。
⑤税金回収率⑥給水原価⑦施設利用率
税金回収率が減少した要因は給水原価の上昇によるもので、また原因は市内4箇所にある浄水場の維持管理費が高騰していることが原価を上昇させていると考えられる。経常費用の削減と併せ、今後の人口減少を鑑み、施設の統廃合等も検討する必要があるため、近隣事業者との広域連携協議を行っている。

⑧有収率
平均値より低い状況が続いている。これは老朽配水管からの漏水事故が多く、漏水事故が年々増加傾向にあるため、管路更新計画に基づき早急な対応を行う必要がある。

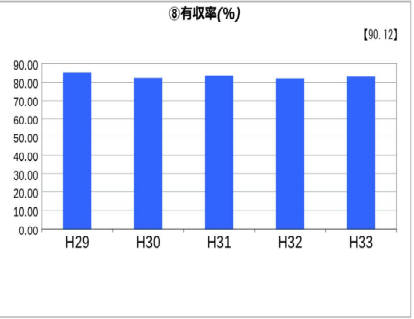
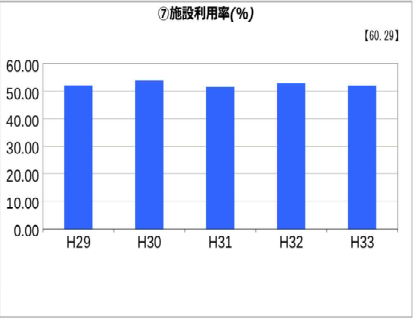
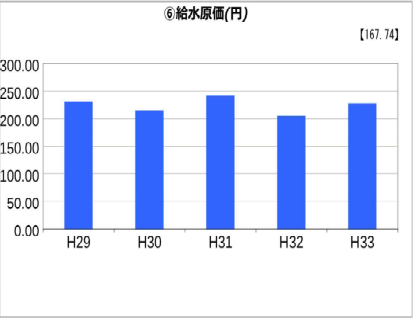
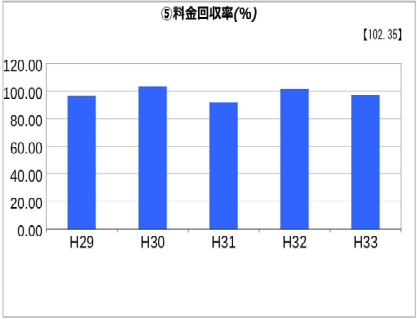
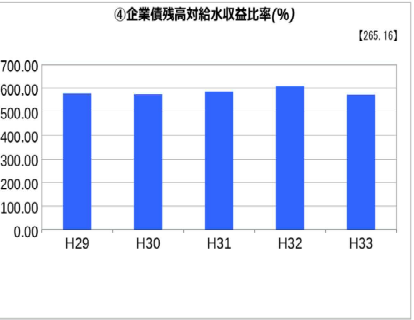
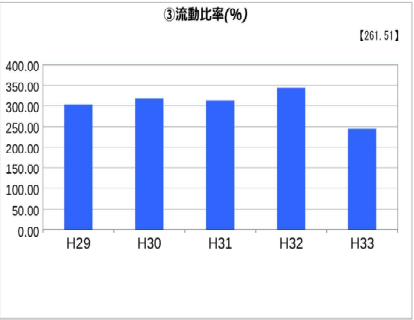
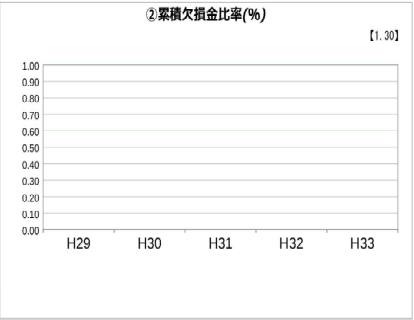
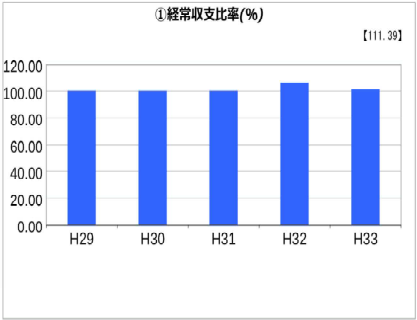
2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率
近年、上昇率が高いため早急な施設等の更新が必要となっており、補助金等を最大限に活用した更新計画を検討していくべきである。
②管路経年化率
③管路更新率
上記率が悪化した原因は、大口径の老朽管を中心として更新したため費用の面から、更新距離が短くなったためで、今後も老朽管更新の早期着手に向けた計画を進めていく必要がある。

全体総括

直方市水道事業は、単年度黒字が続いている状況であるが、管路の経年化比率の高さ、及び浄水施設の老朽化等の状況から、今後は整備費用がさらに増大することと予想される。当年度においても老朽管の漏水事故が多発し、また漏水が続くなどし修繕費用、資質維持費用ともかなり増大している状況である。
給水収益は、人口減少に伴い今後も減少が見込めるため、経営悪化が見込まれる中、今後の検討課題としては、浄水施設の統廃合や近隣事業者との広域連携も促進させていかなければならない。
経営基盤の強化、効率的な運営を図ると共に、安全な水道水を安定的に供給するため、経常的な費用を削減することにより、健全な企業経営及び財政の確立を進めていく必要がある。

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況

